

科目名	生涯発達心理学			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期
							1年 後期
【授業の目的・ねらい】 人間の成長に応じて変化する、認知・情緒・自我の発達、社会化等について理解する。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 乳児期から老年期までの生涯にわたる心理発達について身体、運動、認知、行動、言語などの各側面から理解できる。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 人間の発達を胎児から老人までの生涯のスパンでとらえ、どのような心理的発達経過をとるのか、その基礎知識を身につけると共に、自分自身に対する理解を深めることを目的とする。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	発達の概念 (1)生涯発達とは、発達理論を理解できる。						
2	(2)発達の規定要因、発達研究法、発達課題を理解できる。						
3	胎生期 (1)胎生期の区分を理解できる。						
4	(2)胎児の生理、心理学的発達、母親の心理と胎児の発達について理解できる。						
5	新生児期 (1)知覚、認知の発達、社会的能力を理解できる。						
6	乳児期 (1)知覚・認知の発達、運動の発達を理解できる。						
7	(2)対人、情緒の発達について理解できる。						
8	(3)前言語的コミュニケーションと言語獲得を理解できる。						
9	幼児期 (1)幼児期の特色、遊びによる発達を理解できる。						
10	(2)ピアジェの発達段階について理解できる。						
11	児童期 (1)児童期の特徴、知的機能の発達、学校教育と発達を理解できる。						
12	(2)感情の発達、発達障害を理解できる。						
13	青年期 青年期の特徴、青年期の危機と成長について理解できる。						
14	成人期 成人期の特徴、中年期の危機について理解できる。						
15	老年期 老年期の位置づけと特徴、エイジングとパーソナリティを理解できる。						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士のための心理学 第2版』							
【準備学習・時間外学習】 復習による基礎知識の整理が必要です。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							